

注3

大学番号：私271

[平成30年度設置]

計画の区分： 学部の学科の設置

注1

届出

吉備国際大学 農学部 醸造学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 順正学園

平成30年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 ソウゴウキカクブ フチョウ オオタ シュウイチロウ
総合企画部 部長 太田 秀一郎

電話番号 086-231-3613

（夜間） 086-231-3613

F A X 086-231-3615

e-mail kikaku@office.jei.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成30年3月26日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

農学部

<醸造学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. AC対象学部等を含む大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	17
6. 留意事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 順正学園

(2) 大学名

吉備国際大学

(3) 大学の位置

〒656-0484
兵庫県南あわじ市知佐礼尾370-1

〒716-8508
岡山県高梁市伊賀町8番地

- ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カケ ミヤコ) 加計 美也子 (平成13年1月)		
学長	(マヤマ シゲユキ) 眞山 滋志 (平成27年4月)		
学部長	(タニサカ タカトシ) 谷坂 隆俊 (平成27年4月)		
学科長等	(カナザワ カズキ) 金沢 和樹 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成29年度に報告済の内容 → (29)

平成30年度に報告する内容 → (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の4年制の学科の場合(平成30年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
農学部 醸造学科 学士(醸造学)	農学関係 家政関係	4年	40人	年次人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	40 (-) [-]	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	0.5倍	
志願者数	40 (-) [1]	- (-) [-]	() () []							
受験者数	39 (-) [1]	- (-) [-]	() () []							
合格者数	38 (-) [1]	- (-) [-]	() () []							
B 入学者数	20 (-) [1]	- (-) [-]	() () []							
入学定員超過率 B/A	0.5									

- (注) ・ 数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	20 [1] (-)	- [-] (-)							
2年次	/								
3年次	/		/						
4年次	/		/		/				
計	20 [1] (-)								

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成30年度	20人	0人	平成30年度	0人	0人	
平成31年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
平成32年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
平成33年度	人	人	平成30年度	人	人	
			平成31年度	人	人	
			平成32年度	人	人	
			平成33年度	人	人	
合計	20人	0人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{20} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数(a)}}{\text{平成31年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成32年度】

$$\frac{\text{平成32年度の退学者数(a)}}{\text{平成32年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成33年度】

$$\frac{\text{平成33年度の退学者数(a)}}{\text{平成33年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<農学部 醸造学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
吉備国際大の学び	吉備国際大から世界へ	1前	2			1						
	地域学概論	1後		2			1					
	地域貢献ボランティア	2通		2								1
キャリア教育科目	キャリア開発 I	1後	2									1
	キャリア開発 II	2前		2								1
情報教育科目	情報処理 I	1前		2			1					
	情報処理 II	1後		2			1					
外国語	英語 I	1前		2								1
	英語 II	1後		2								1
	英語 III	2前		2								1
	英語 IV	2後		2								1
	中国語 I	1前		2								1
	中国語 II	1後		2								1
	中国語 III	2前		2								1
中国語 IV	2後		2								1	
日本語(留学生専用科目)	日本語 I A	1前		2								2
	日本語 I B	1後		2								2
	日本語 II A	2前		2								2
	日本語 II B	2後		2								2
	応用日本語 I A	1前		2								2
	応用日本語 I B	1後		2								2
	応用日本語 II A	2前		2								2
	応用日本語 II B	2後		2								2
	日本語研究 I A	1前		2								2
	日本語研究 I B	1後		2								2
日本語研究 II A	2前		2								2	
日本語研究 II B	2後		2								2	
人間性の涵養	文章表現入門	1後		2								1
	文学への招待	1後		2								1
	美術の見方	1後		2								1
	音楽の楽しみ	2後		2								1
	生涯スポーツ論	1前		2								1
	生涯スポーツ実習	1後		1								1
世界認識・自己理解	哲学	1前		2								1
	宗教学	1後		2								1
	倫理学	2前		2								1
	心理学	1後		2								1
	多文化理解	1後		2			1					
社会と制度	日本国憲法	1後		2								1
	民法	1前		2								1
	経済学	1前		2								1
	社会学	2前		2								1
	人権と政治	2前		2								1
	社会と統計	1後		2								1

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
吉備国際大の学び	吉備国際大から世界へ	1前	2			1						
	地域学概論	1後		2			1					
	地域貢献ボランティア	2通		2								1
キャリア教育科目	キャリア開発 I	1前	2									1
	キャリア開発 II	2前		2								1
情報教育科目	情報処理 I	1前		2			1					
	情報処理 II	1後		2			1					
外国語	英語 I	1前		2								1
	英語 II	1後		2								1
	英語 III	2前		2								1
	英語 IV	2後		2								1
	中国語 I	1前		2								1
	中国語 II	1後		2								1
	中国語 III	2前		2								1
中国語 IV	2後		2								1	
日本語(留学生専用科目)	日本語 I A	1前		2								2
	日本語 I B	1後		2								2
	日本語 II A	2前		2								2
	日本語 II B	2後		2								2
	応用日本語 I A	1前		2								2
	応用日本語 I B	1後		2								2
	応用日本語 II A	2前		2								2
	応用日本語 II B	2後		2								2
	日本語研究 I A	1前		2								2
	日本語研究 I B	1後		2								2
日本語研究 II A	2前		2								2	
日本語研究 II B	2後		2								2	
人間性の涵養	文章表現入門	1後		2								1
	文学への招待	1後		2								1
	美術の見方	1後		2								1
	音楽の楽しみ	2後		2								1
	生涯スポーツ論	1前		2								1
	生涯スポーツ実習	1後		1								1
世界認識・自己理解	哲学	1前		2								1
	宗教学	1後		2								1
	倫理学	2前		2								1
	心理学	1後		2								1
	多文化理解	1後		2			1					
社会と制度	日本国憲法	1後		2								1
	民法	1前		2								1
	経済学	1前		2								1
	社会学	2前		2								1
	人権と政治	2前		2								1
	社会と統計	1後		2								1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
自然と数理	環境科学	1前	2								1
	物理学	1後	2			1					
	生物学	1前	2								1
	化学	1後	2								1
	人類生態学	3前	2								1
	統計学	2後	2								1
	数学	2後	2								1
教連携	南あわじ農業学	1前	2								1
	日本の伝統実技Ⅰ(文)	3後	1								2
	日本の伝統実技Ⅱ(武)	3前	1								1
専門基礎科目	醸造学概論	1前	2			4	1		1		
	基礎演習Ⅰ	1前	1			4	1		1		
	基礎演習Ⅱ	1後	1			4	1		1		
	基礎演習Ⅲ	2前	1			4	1		2		
	基礎演習Ⅳ	2後	1			4	1		2		
	遺伝学	1前	2								1
	分子生物学	2前	2								1
	ゲノム情報学	1後	2								1
	植物生理学	1前	2								1
	生物の進化と多様性	1前	2								1
	農業技術政策論	1前	2								1
	現代農業論	1後	2								1
	生物化学	2前	2								1
	有機化学	2後	2								1
	食の安全学	1前	2			2	1				3
	生物学実験	2後	1				1				1
化学実験	2後	1			3	1		2			
農業系科目	植物育種学概論	2前	2								1
	栽培学	1前	2								1
	野菜園芸学	2後	2								1
	花卉園芸学	2前	2								1
	植物病理学	2前	2								1
	総合防除管理学	3後	2			1					3
	植物細胞生理学	2後	2								1
	施設栽培・植物工場論	3前	2								1
	応用昆虫学	2後	2								1
	雑草学	3前	1								1
	農薬学	3後	2								2
	農業気象学	3後	2			1					2
	家畜とその飼養管理	2前	2								4
	家畜の育種と繁殖	2後	2								4
	家畜の構造と病気	3前	2								4
	家畜とバイオテクノロジー	3後	2								1
	生物統計学	3前	2								1
フィールド実習Ⅰ	1前	1								3	
フィールド実習Ⅱ	1後	1								3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
自然と数理	環境科学	1前	2								1
	物理学	1後	2					1			
	生物学	1前	2								1
	化学	1後	2								1
	人類生態学	3前	2								1
	統計学	2後	2								1
	数学	2後	2								1
教連携	南あわじ農業学	1前	2								1
	日本の伝統実技Ⅰ(文)	3後	1								2
	日本の伝統実技Ⅱ(武)	3前	1								1
専門基礎科目	醸造学概論	1前	2			4	1		1		
	基礎演習Ⅰ	1前	1			4	1		1		
	基礎演習Ⅱ	1後	1			4	1		1		
	基礎演習Ⅲ	2前	1			4	1		2		
	基礎演習Ⅳ	2後	1			4	1		2		
	遺伝学	1前	2								1
	分子生物学	2前	2								1
	ゲノム情報学	1後	2								1
	植物生理学	1前	2								1
	生物の進化と多様性	1前	2								1
	農業技術政策論	1前	2								1
	現代農業論	1後	2								1
	生物化学	2前	2								1
	有機化学	2後	2								1
	食の安全学	1前	2			2	1				3
	生物学実験	2後	1				1				1
化学実験	2後	1			3	1		2			
農業系科目	植物育種学概論	2前	2								1
	栽培学	1前	2								1
	野菜園芸学	2後	2								1
	花卉園芸学	2前	2								1
	植物病理学	2前	2								1
	総合防除管理学	3後	2					1			3
	植物細胞生理学	2後	2								1
	施設栽培・植物工場論	3前	2								1
	応用昆虫学	2後	2								1
	雑草学	3前	1								1
	農薬学	3後	2								2
	農業気象学	3後	2					1			2
	家畜とその飼養管理	2前	2								4
	家畜の育種と繁殖	2後	2								4
	家畜の構造と病気	3前	2								4
	家畜とバイオテクノロジー	3後	2								1
	生物統計学	3前	2								1
フィールド実習Ⅰ	1前	1								3	
フィールド実習Ⅱ	1後	1								3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
醸造計科目	醸造分析化学	3後	2			2						
	醸造酵素化学	3前		2		1						
	醸造機能食品学	2前		2					1			
	醸造管理学	3前	2			1						
	微生物学	2前		2			1					
	醱酵微生物学	3後		2							1	
	醸造微生物学	2前		2		1						
	微生物毒性学	3前		2			1					
	環境汚染物質分析学	3後		2								1
	日本酒学	3後		2		1						
	ワイン学	3後		2							1	
	乳酸菌醸造学	3前		2					1			
	醸造学実習	3前	1			3	1		2			
	栄養化学	2後		2		1						
	食品機能分析化学	3前		2		1						
	機能性食品学	3後			2							1
	食品化学	2前			2							1
	食品生化学	3前			2							1
	醸造食品素材学	2前			2							1
	酵素工学	3後			2				1			
食品遺伝子工学	3前			2						1		
食品加工化学	2後			2		1			1			
食品保蔵学	3後			2							1	
食品管理化学	3前			2		1						
食品衛生学	2後			2							1	
農産物加工学	2前			2							1	
食肉加工学	3前			2							1	
乳製品加工学	2後			2							1	
水産物加工学	2後			2		1						
味と食感の科学	3前			2		1						
専門応用科目	食品安全の経済学	4前		2								1
	食農マーケティング論	3前		2								1
	日本の食文化	3後		2								1
	日本の食文化実習	3後		1								1
	インターンシップ	3前		2								2
	食農コープ実習	4前		2								4
	醸造学演習Ⅰ	3前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅱ	3後	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅲ	4前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅳ	4後	2			5	1		2			
	卒業研究	4通	10			5	1		2			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
醸造計科目	醸造分析化学	3後	2			2						
	醸造酵素化学	3前		2		1						
	醸造機能食品学	2前		2						1		
	醸造管理学	3前	2			1						
	微生物学	2前		2			1					
	醱酵微生物学	3後		2								1
	醸造微生物学	2前		2		1						
	微生物毒性学	3前		2			1					
	環境汚染物質分析学	3後		2								1
	日本酒学	3後		2		1						
	ワイン学	3後		2								1
	乳酸菌醸造学	3前		2						1		
	醸造学実習	3前	1			3	1		2			
	栄養化学	2後		2		1						
	食品機能分析化学	3前		2		1						
	機能性食品学	3後			2							1
	食品化学	2前			2							1
	食品生化学	3前			2							1
	醸造食品素材学	2前			2							1
	酵素工学	3後			2				1			
食品遺伝子工学	3前			2							1	
食品加工化学	2後			2		1			1			
食品保蔵学	3後			2							1	
食品管理化学	3前			2		1						
食品衛生学	2後			2							1	
農産物加工学	2前			2							1	
食肉加工学	3前			2							1	
乳製品加工学	2後			2							1	
水産物加工学	2後			2		1						
味と食感の科学	3前			2		1						
専門応用科目	食品安全の経済学	4前		2								1
	食農マーケティング論	3前		2								1
	日本の食文化	3後		2								1
	日本の食文化実習	3後		1								1
	インターンシップ	3前		2								2
	食農コープ実習	4前		2								4
	醸造学演習Ⅰ	3前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅱ	3後	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅲ	4前	2			5	1		2			
	醸造学演習Ⅳ	4後	2			5	1		2			
	卒業研究	4通	10			5	1		2			

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 - ・ その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) -②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

特になし

- (注) ・ 変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
22 科目	109 科目	0 科目	131 科目	22 科目 []	109 科目 []	0 科目 []	131 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{131} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	順正高等看護福祉専門 学校と共用 登記面積変更に伴う変 更 (30)		
	校舎敷地	41,292.00 40,577.54 m ²	78,399.04 m ²	0 m ²	119,691.04 118,976.58 m ²			
	運動場用地	15,970.00 m ²	33,168.20 m ²	0 m ²	49,138.20 m ²			
	小 計	57,262.00 56,547.54 m ²	111,567.24 m ²	0 m ²	168,829.24 168,114.78 m ²			
	そ の 他	16,893.03 17,620.21 m ²	84,341.15 85,091.23 m ²	0 m ²	101,234.18 102,711.44 m ²			
	合 計	74,155.03 74,167.75 m ²	195,908.39 196,658.47 m ²	0 m ²	270,063.42 270,826.22 m ²			
(2) 校 舎	専 用	47,963.46 48,032.88 m ²	0 m ²	0 m ²	47,963.46 48,032.88 m ²	醸造学科に係る建物の 届出時と登記した面積 の差 (30)		
	(47,963.46 48,032.88 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	58 室	54 室	77 室	6 室 (補助職員 1 人)	4 室 (補助職員 0 人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	農学部 醸造学科			8 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	
		農学部 醸造学科	7,031 [305] (7,031 [305])	36 [2] (36 [2])	9 [8] (9 [8])	80 (80)	1,766 (1,766)	0 (0)
	計	7,031 [305] (7,031 [305])	36 [2] (36 [2])	9 [8] (9 [8])	80 (80)	1,766 (1,766)	0 (0)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体 ラーニングcommons整 備に係る変更 (30)		
	2,646 2,149 m ²		420	145,527 144,819				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	2,625.50 m ²		雨天練習場 (野 球)	サッカー場 (人工芝) 1面			大学全体	
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員 1 人当り研究費等	355 千円	326 千円	図書購入費	805 千円	200 千円	200 千円
	共 同 研 究 費 等	10,000 千円	10,000 千円	設備購入費	175,000 千円	300 千円	300 千円	
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		1,680 千円	1,380 千円	1,380 千円	1,380 千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号 (その 1 の 1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成 30 年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延) がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	吉備国際大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収容量	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
社会学研究科									
社会学専攻	3	4	-	12	博士 (社会学)	0.16	平成9年度	岡山県高梁市伊賀町8番地	
博士(後期)課程									
社会学専攻	2	12	-	24	修士 (社会学)	0.12	平成7年度	同上	
博士(前期)課程									
保健科学研究科									
保健科学専攻	3	3	-	9	博士 (保健学)	1.10	平成17年度	同上	
博士(後期)課程									
保健科学専攻	2	6	-	12	修士 (保健学)	0.83	平成12年度	同上	
博士(前期)課程									
社会福祉学研究科									
社会福祉学専攻	2	7	-	14	修士 (社会福祉学)	0.07	平成11年度	同上	
修士課程									
心理学研究科									
心理学専攻	3	2	-	6	博士 (心理学)	0.16	平成18年度	同上	
博士(後期)課程									
臨床心理学専攻	2	15	-	30	修士 (臨床心理学)	0.23	平成16年度	同上	
修士課程									
心理学専攻	2	5	-	10	修士 (心理学)	0.00	平成22年度	同上	
博士(前期)課程									
地域創成農学研究科									
地域創成農学専攻	2	4	-	8	修士 (農学)	0.37	平成29年度	兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370番1	
修士課程									
(通信制)									
社会福祉学研究科									
社会福祉学専攻	2	10	-	20	修士 (社会福祉学)	0.70	平成14年度	岡山県高梁市伊賀町8番地	
修士課程									
(通信制)									
連合国際協力研究科									
国際協力専攻	2	7	-	14	修士 (国際協力)	1.00	平成18年度	同上	
修士課程									
(通信制)									
心理学研究科									
心理学専攻	3	3	-	9	博士 (心理学)	0.55	平成18年度	同上	
博士(後期)課程									
(通信制)									
保健科学研究科									
理学療法学専攻	2	15	-	30	修士 (理学療法学)	0.39	平成20年度	同上	
修士課程									
(通信制)									
保健科学研究科									
作業療法学専攻	2	10	-	20	修士 (作業療法学)	0.55	平成22年度	同上	
修士課程									
(通信制)									
知的財産学研究科									
知的財産学専攻	2	30	-	60	修士 (知的財産学)	0.19	平成20年度	同上	
修士課程									
社会科学部									
経営社会学科	4	60	3年次 10	260	学士 (経営社会学)	0.63	平成25年度	同上	
ビジネスマニケーション 学科	4	-	-	-	学士 (社会学)	-	平成2年度	同上	

スポーツ社会学科	4	100	-	400	学士 (スポーツ社会学)	0.81	平成17年度	同上	
保健医療福祉学部									
看護学科	4	60	3年次 10	260	学士 (看護学)	1.04	平成7年度	同上	
理学療法学科	4	40	-	160	学士 (理学療法 学)	1.17	平成7年度	同上	
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (作業療法 学)	0.90	平成7年度	同上	
社会福祉学科	4	40	-	180	学士 (社会福祉 学)	0.16	平成23年度	同上	
心理学部									
心理学科	4	50	-	200	学士 (心理学)	0.60	平成19年度	同上	
子ども発達教育 学科	4	40	-	160	学士 (子ども発 達教育学)	0.45	平成23年度	同上	
農学部									
地域創成農学科	4	50	3年次 10	250	学士 (地域創成 農学)	0.66	平成25年度	兵庫県南あわじ市志知佐礼尾370番1	
醸造学科	4	40	-	40	学士 (醸造学)	0.50	平成30年度	同上	
外国語学部									
外国学科	4	50	-	290	学士 (外国語 学)	0.39	平成26年度	岡山県岡山市北区奥田西町5番5号	
アニメーション文化学部									
アニメーション文化学科	4	40	-	160	学士 (アニメー ション文化 学)	0.35	平成26年度	岡山県高梁市伊賀町8番地	
通信教育部心理学部									
子ども発達教育 学科	4	50	2年次 30 3年次 30	350	学士 (子ども発 達教育学)	0.20	平成24年度	同上	

大学の名称	九州保健福祉大学								備考
-------	----------	--	--	--	--	--	--	--	----

既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 員	収定 容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 年 設 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
医療薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程 (通信制)	4	4	-	16	博士 (医療薬 学)	0.50	平成24年度	宮崎県延岡市吉野町1714番1	
連合社会福祉学 研究科 社会福祉学専攻 博士(後期)課程 (通信制)	3	5	-	15	博士 (社会福祉 学)	0.46	平成16年度	同上	
社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程 (通信制)	2	20	-	40	修士 (社会福祉 学)	0.07	平成14年度	同上	
保健科学研究科 保健科学専攻 博士(後期)課程 (通信制)	3	3	-	9	博士 (保健科 学)	0.33	平成16年度	同上	
保健科学研究科 保健科学専攻 博士(前期)課程	2	7	-	14	修士 (保健科 学)	0.63	平成14年度	同上	
社会福祉学部									

スポーツ健康福祉 学科	4	40	3年次 2	164	学士 (社会福祉 学)	1.06	平成16年度	同上
臨床福祉学科	4	65	3年次 5	270	学士 (社会福祉 学)	0.48	平成11年度	同上
子ども保育福祉 学科	4	-	-	-	学士 (社会福祉 学)	-	平成19年度	同上
保健科学部								
作業療法学科	4	40	-	160	学士 (保健科 学)	0.68	平成11年度	同上
言語聴覚療法学科	4	40	-	160	学士 (保健科 学)	0.57	平成11年度	同上
視機能療法学科	4	40	-	160	学士 (保健科 学)	0.26	平成11年度	同上
臨床工学科	4	50	-	200	学士 (保健科 学)	0.41	平成19年度	同上
薬学部								
薬学科	6	140	2年次 3 4年次 3	864	学士 (薬学)	0.92	平成15年度	同上
動物生命薬科学科	4	40	-	160	学士 (動物生命 薬科学)	0.54	平成20年度	同上
生命医科学部								
生命医科学科	4	60	-	240	学士 (生命医科 学)	1.11	平成27年度	同上
通信教育部 社会福祉学部								
臨床福祉学科	4	500	2年次 30 3年次 150 4年次 10	2400	学士 (社会福祉 学)	0.16	平成14年度	同上

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については, 必ず記入するとともに, 下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<農学部 醸造学科>

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	教授	橋本 久美子 (53) <平成30年4月>
		担当授業科目名 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 物理学 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 農業化学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	金沢 和樹 (69) <平成30年4月>
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 食の安全学 ※ 化学実験 醸造学実習 栄養化学 食品機能分析化学 食品加工化学 ※ 食品管理化学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	福田 惠温 (66) <平成30年4月>
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 化学実験 醸造分析化学 ※ 醸造酵素化学 醸造学実習 味と食感の科学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	井上 守正 (55) <平成30年4月>
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 化学実験 醸造分析化学 ※ 醸造管理学 日本酒学 醸造学実習 水産物加工学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	眞山 滋志 (73) <平成30年4月>
		醸造学概論 ※ 食の安全学 ※ 醸造微生物学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	准教授	村上 二郎 (48) <平成30年4月>
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 化学実験 総合防除管理学 ※ フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 微生物学 微生物毒性学 醸造学実習 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月>
専	教授	橋本 久美子 (53) <平成30年4月>
		担当授業科目名 情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ 物理学 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 農業化学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	金沢 和樹 (69) <平成30年4月>
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 食の安全学 ※ 化学実験 醸造学実習 栄養化学 食品機能分析化学 食品加工化学 ※ 食品管理化学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	福田 惠温 (66) <平成30年4月>
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 化学実験 醸造分析化学 ※ 醸造酵素化学 醸造学実習 味と食感の科学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	井上 守正 (55) <平成30年4月>
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 化学実験 醸造分析化学 ※ 醸造管理学 日本酒学 醸造学実習 水産物加工学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	教授	眞山 滋志 (73) <平成30年4月>
		醸造学概論 ※ 食の安全学 ※ 醸造微生物学 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究
専	准教授	村上 二郎 (48) <平成30年4月>
		醸造学概論 ※ 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ 分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 化学実験 総合防除管理学 ※ フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 微生物学 微生物毒性学 醸造学実習 醸造学演習Ⅰ 醸造学演習Ⅱ 醸造学演習Ⅲ 醸造学演習Ⅳ 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名
専	助教	金沢 功 (32) <平成30年4月> 醸造学概論 ※ 基礎演習 I 基礎演習 II 基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 醸造機能食品学 醸造学実習 食品加工化学 ※ 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
専	助教	林 将也 (29) <平成31年4月> 基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 乳酸菌醸造学 醸造学実習 醸造工学 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
兼任	教授	末吉 秀二 (61) <平成30年4月> 吉備国際大から世界 多文化理解 人類生態学
兼任	教授	生駒 正文 (72) <平成30年4月> 民法 インターンシップ
兼任	教授 (学部長)	谷坂 隆俊 (71) <平成30年4月> 遺伝学 食の安全学 ※ 植物育種学概論
兼任	教授	石井 英夫 (68) <平成30年4月> 生物の進化と多様性 植物病理学 植物細胞生理学
兼任	教授	森野(堀内) 真理 (51) <平成30年4月> 環境科学 生物学 総合防除管理学 ※ 生物統計学
兼任	教授	加古 敏之 (71) <平成30年4月> 現代農業論 食の安全学 ※ 食農コープ実習
兼任	准教授	濱島 敦博 (44) <平成30年4月> 経済学
兼任	准教授	平井 順 (45) <平成30年4月> 社会学 社会と統計 統計学
兼任	准教授	吉川 貴徳 (30) <平成30年4月> 分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習 I フィールド実習 II
兼任	講師	正井 良徳 (78) <平成30年4月> 地域学概論 ※ 文学への招待
兼任	講師	武田 信一 (82) <平成30年4月> 地域学概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名
専	助教	金沢 功 (32) <平成30年4月> 醸造学概論 ※ 基礎演習 I 基礎演習 II 基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 醸造機能食品学 醸造学実習 食品加工化学 ※ 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
専	助教	林 将也 (29) <平成31年4月> 基礎演習 III 基礎演習 IV 化学実験 乳酸菌醸造学 醸造学実習 醸造工学 醸造学演習 I 醸造学演習 II 醸造学演習 III 醸造学演習 IV 卒業研究
兼任	教授	末吉 秀二 (61) <平成30年4月> 吉備国際大から世界 多文化理解 人類生態学
兼任	教授	生駒 正文 (72) <平成30年4月> 民法 インターンシップ
兼任	教授 (学部長)	谷坂 隆俊 (71) <平成30年4月> 遺伝学 食の安全学 ※ 植物育種学概論
兼任	教授	石井 英夫 (68) <平成30年4月> 生物の進化と多様性 植物病理学 植物細胞生理学
兼任	教授	森野(堀内) 真理 (51) <平成30年4月> 環境科学 生物学 総合防除管理学 ※ 生物統計学
兼任	教授	加古 敏之 (71) <平成30年4月> 現代農業論 食の安全学 ※ 食農コープ実習
兼任	准教授	濱島 敦博 (44) <平成30年4月> 経済学
兼任	准教授	平井 順 (45) <平成30年4月> 社会学 社会と統計 統計学
兼任	准教授	松原 健一郎 (41) <平成30年4月> 分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習 I フィールド実習 II
兼任	助教	許 冲 (30) <平成30年4月> 分子生物学 ※ 食の安全学 ※ 生物学実験 フィールド実習 I フィールド実習 II
兼任	講師	正井 良徳 (78) <平成30年4月> 地域学概論 ※ 文学への招待
兼任	講師	武田 信一 (82) <平成30年4月> 地域学概論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼任	講師	山本 慶子 (71) <平成30年4月> 地域貢献ボランティア キャリア開発Ⅰ キャリア開発Ⅱ 文章表現入門 インターンシップ
兼任	講師	今田 圭介 (59) <平成30年4月> 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	吉田 慶 (57) <平成30年4月> 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ
兼任	講師	元木 佳江 (58) <平成30年4月> 日本語ⅠA 日本語ⅠB 日本語ⅡA 日本語ⅡB 応用日本語ⅠA 応用日本語ⅠB 応用日本語ⅡA 応用日本語ⅡB 日本語研究ⅠA 日本語研究ⅠB 日本語研究ⅡA 日本語研究ⅡB
兼任	講師	生駒 恵子 (63) <平成30年4月> 日本語ⅠA 日本語ⅠB 日本語ⅡA 日本語ⅡB 応用日本語ⅠA 応用日本語ⅠB 応用日本語ⅡA 応用日本語ⅡB 日本語研究ⅠA 日本語研究ⅠB 日本語研究ⅡA 日本語研究ⅡB
兼任	講師	丹羽 三恵子 (70) <平成30年4月> 美術の見方
兼任	講師	佐竹 裕子 (57) <平成31年4月> 音楽の楽しみ
兼任	講師	宇都宮 敬晴 (69) <平成30年4月> 生涯スポーツ論 生涯スポーツ実習
兼任	講師	竹原 弘 (70) <平成30年4月> 哲学 倫理学
兼任	講師	日種 晃嗣 (45) <平成30年4月> 宗教学
兼任	講師	松下 徹 (56) <平成30年4月> 心理学
兼任	講師	谷坂 真紀子 (39) <平成30年4月> 日本国憲法
兼任	講師	内藤 智秋 (48) <平成31年4月> 人権と政治
兼任	講師	佐々木 満 (71) <平成30年4月> 化学 有機化学 農業学 ※
兼任	講師	増田 順 (75) <平成31年4月> 数学
兼任	講師	勸如 純一 (66) <平成30年4月> 南あわじ農業学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼任	講師	山本 慶子 (71) <平成30年4月> 地域貢献ボランティア キャリア開発Ⅰ キャリア開発Ⅱ 文章表現入門 インターンシップ
兼任	講師	榎倉 利治 (67) <平成30年4月> キャリア開発Ⅰ
兼任	講師	今田 圭介 (59) <平成30年4月> 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ
兼任	講師	吉田 慶 (57) <平成30年4月> 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ
兼任	講師	元木 佳江 (58) <平成30年4月> 日本語ⅠA 日本語ⅠB 日本語ⅡA 日本語ⅡB 応用日本語ⅠA 応用日本語ⅠB 応用日本語ⅡA 応用日本語ⅡB 日本語研究ⅠA 日本語研究ⅠB 日本語研究ⅡA 日本語研究ⅡB
兼任	講師	生駒 恵子 (63) <平成30年4月> 日本語ⅠA 日本語ⅠB 日本語ⅡA 日本語ⅡB 応用日本語ⅠA 応用日本語ⅠB 応用日本語ⅡA 応用日本語ⅡB 日本語研究ⅠA 日本語研究ⅠB 日本語研究ⅡA 日本語研究ⅡB
兼任	講師	大下 麻子 (41) <平成30年4月> 日本語ⅠA 応用日本語ⅠA 日本語研究ⅠA
兼任	講師	丹羽 三恵子 (70) <平成30年4月> 美術の見方
兼任	講師	佐竹 裕子 (57) <平成31年4月> 音楽の楽しみ
兼任	講師	宇都宮 敬晴 (69) <平成30年4月> 生涯スポーツ論 生涯スポーツ実習
兼任	講師	竹原 弘 (70) <平成30年4月> 哲学 倫理学
兼任	講師	日種 晃嗣 (45) <平成30年4月> 宗教学
兼任	講師	松下 徹 (56) <平成30年4月> 心理学
兼任	講師	谷坂 真紀子 (39) <平成30年4月> 日本国憲法
兼任	講師	内藤 智秋 (48) <平成31年4月> 人権と政治
兼任	講師	佐々木 満 (71) <平成30年4月> 化学 有機化学 農業学 ※
兼任	講師	増田 順 (75) <平成31年4月> 数学
兼任	講師	勸如 純一 (66) <平成30年4月> 南あわじ農業学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼任	講師	堤 俊彦 (68) <平成32年4月> 日本の伝統実技Ⅰ(文) ※
兼任	講師	堤 初美 (67) <平成32年4月> 日本の伝統実技Ⅰ(文) ※
兼任	講師	森川 勝次 (74) <平成32年4月> 日本の伝統実技Ⅱ(武)
兼任	講師	薬山 拓司 (42) <平成30年4月> ゲノム情報学
兼任	講師	長谷川 博 (70) <平成30年4月> 植物生理学
兼任	講師	山田 利昭 (73) <平成30年4月> 農業技術政策論 栽培学
兼任	講師	水野 雅史 (60) <平成31年4月> 生物化学
兼任	講師	宇野 雄一 (51) <平成31年4月> 野菜園芸学
兼任	講師	能勢 健吉 (68) <平成31年4月> 花卉園芸学
兼任	講師	梅津 憲治 (72) <平成31年4月> 総合防除管理学 ※ 施設栽培・植物工場論 農業学 ※
兼任	講師	草刈 真一 (72) <平成33年4月> 総合防除管理学 ※
兼任	講師	内藤 親彦 (76) <平成31年4月> 応用昆虫学
兼任	講師	須藤 健一 (68) <平成32年4月> 雑草学
兼任	講師	向井 文雄 (68) <平成30年4月> 家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	辻 荘一 (76) <平成30年4月> 家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	大山 憲二 (49) <平成30年4月> 家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	上菅山 博 (61) <平成30年4月> 家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	万年 英之 (54) <平成32年4月> 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	三宅 正史 (69) <平成31年4月> 家畜の育種と繁殖 ※ ※家畜とバイオテクノロジー
兼任	講師	北川 浩 (67) <平成32年4月> 家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	星 信彦 (61) <平成32年4月> 家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	河野 潤一 (65) <平成32年4月> 家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	大澤 朗 (64) <平成32年4月> 家畜の構造と病気 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼任	講師	堤 俊彦 (68) <平成32年4月> 日本の伝統実技Ⅰ(文) ※
兼任	講師	堤 初美 (67) <平成32年4月> 日本の伝統実技Ⅰ(文) ※
兼任	講師	森川 勝次 (74) <平成32年4月> 日本の伝統実技Ⅱ(武)
兼任	講師	薬山 拓司 (42) <平成30年4月> ゲノム情報学
兼任	講師	長谷川 博 (70) <平成30年4月> 植物生理学
兼任	講師	山田 利昭 (73) <平成30年4月> 農業技術政策論 栽培学
兼任	講師	水野 雅史 (60) <平成31年4月> 生物化学
兼任	講師	宇野 雄一 (51) <平成31年4月> 野菜園芸学
兼任	講師	能勢 健吉 (68) <平成31年4月> 花卉園芸学
兼任	講師	梅津 憲治 (72) <平成31年4月> 総合防除管理学 ※ 施設栽培・植物工場論 農業学 ※
兼任	講師	草刈 真一 (72) <平成33年4月> 総合防除管理学 ※
兼任	講師	内藤 親彦 (76) <平成31年4月> 応用昆虫学
兼任	講師	須藤 健一 (68) <平成32年4月> 雑草学
兼任	講師	向井 文雄 (68) <平成30年4月> 家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	辻 荘一 (76) <平成30年4月> 家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	大山 憲二 (49) <平成30年4月> 家畜とその飼養管理 ※ 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	上菅山 博 (61) <平成30年4月> 家畜とその飼養管理 ※
兼任	講師	万年 英之 (54) <平成32年4月> 家畜の育種と繁殖 ※
兼任	講師	三宅 正史 (69) <平成31年4月> 家畜の育種と繁殖 ※ ※家畜とバイオテクノロジー
兼任	講師	北川 浩 (67) <平成32年4月> 家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	星 信彦 (61) <平成32年4月> 家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	河野 潤一 (65) <平成32年4月> 家畜の構造と病気 ※
兼任	講師	大澤 朗 (64) <平成32年4月> 家畜の構造と病気 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼任	講師	盛野 元 (62) <平成30年4月> フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	函城 悦司 (70) <平成30年4月> フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	吉田 健一 (55) <平成32年4月> 醸酵微生物学
兼任	講師	福田 伊津子 (42) <平成32年4月> 環境汚染物質分析学
兼任	講師	三田村 雅 (77) <平成32年4月> ワイン学
兼任	講師	向井 理恵 (40) <平成32年4月> 機能性食品学
兼任	講師	土井 裕司 (68) <平成31年4月> 食品化学 醸造食品素材学 食品衛生学
兼任	講師	榎原 啓之 (45) <平成32年4月> 食品生化学
兼任	講師	丸山 伸之 (50) <平成32年4月> 食品遺伝子工学
兼任	講師	上田 悦範 (76) <平成32年4月> 食品保蔵学
兼任	講師	畠中 知子 (55) <平成31年4月> 農産物加工学
兼任	講師	山之上 穂 (63) <平成32年4月> 食肉加工学
兼任	講師	森田 英利 (55) <平成31年4月> 乳製品加工学
兼任	講師	山口 道利 (46) <平成33年4月> 食品安全の経済学
兼任	講師	小野 雅之 (65) <平成32年4月> 食品マーケティング論
兼任	講師	栗栖 基 (58) <平成32年4月> 日本の食文化 日本の食文化実習
兼任	講師	河村 能夫 (77) <平成33年4月> 食農コープ実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 担当授業科目名
兼任	講師	盛野 元 (62) <平成30年4月> フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	函城 悦司 (70) <平成30年4月> フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ 食農コープ実習
兼任	講師	吉田 健一 (55) <平成32年4月> 醸酵微生物学
兼任	講師	福田 伊津子 (42) <平成32年4月> 環境汚染物質分析学
兼任	講師	三田村 雅 (77) <平成32年4月> ワイン学
兼任	講師	向井 理恵 (40) <平成32年4月> 機能性食品学
兼任	講師	土井 裕司 (68) <平成31年4月> 食品化学 醸造食品素材学 食品衛生学
兼任	講師	榎原 啓之 (45) <平成32年4月> 食品生化学
兼任	講師	丸山 伸之 (50) <平成32年4月> 食品遺伝子工学
兼任	講師	上田 悦範 (76) <平成32年4月> 食品保蔵学
兼任	講師	畠中 知子 (55) <平成31年4月> 農産物加工学
兼任	講師	山之上 穂 (63) <平成32年4月> 食肉加工学
兼任	講師	森田 英利 (55) <平成31年4月> 乳製品加工学
兼任	講師	山口 道利 (46) <平成33年4月> 食品安全の経済学
兼任	講師	小野 雅之 (65) <平成32年4月> 食品マーケティング論
兼任	講師	栗栖 基 (58) <平成32年4月> 日本の食文化 日本の食文化実習
兼任	講師	河村 能夫 (77) <平成33年4月> 食農コープ実習
兼任	講師	福野 公幸 (80) <平成30年4月> フィールド実習Ⅰ フィールド実習Ⅱ

- (注) ・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、**離職時は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・吉川貴徳准教授辞任により、松原健一郎准教授、許冲助教に変更
- ・兼任講師の担当科目変更に伴い兼任講師、兼任講師の追加
- ・教育効果充実のため、担当者追加

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
7	4
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)
5	1	0	2	8	5	1	0	1	7	5	1	0	2	8
(5)	(1)	0	(1)	(7)						[]	[]	[]	[]	[]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
教授・准教授・講師 65	3	3
助教・助手 60		
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{8}{8} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{3}{7} = \boxed{42.85} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
			必修	選択			自由	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
		該当なし	必修							
			選択							
			必修							
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
人			必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修
			選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択
			自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由
			計	0	科目	計	0	計	0	計

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別		担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
			必修	選択			自由	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
		該当なし	必修							
			選択							
			必修							
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
人			必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修
			選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択
			自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由
			計	0	科目	計	0	計	0	計

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)						後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
0	人		必修	0	科目	必修	0	必修	0	必修
			選択	0	科目	選択	0	選択	0	選択
			自由	0	科目	自由	0	自由	0	自由
			計	0	科目	計	0	計	0	計

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{8} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし	必修						
	選択								
	必修								
合計					後任補充状況の集計				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	0	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	0	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	0	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (29年4月)</p>	<p>・完成年度前に、定年 規程に定める退職年齢 を超える専任教員数の 割合が比較的高いこと から、定年規程の趣旨 を踏まえた適切な運用 に努めるとともに、 教員組織編制の将来 構想について検討する こと</p> <p>・吉備国際大学社会科 学部経営社会学科、保 健医療福祉学部社会福 祉学科、心理学部心理 学科、子ども発達教育 学科（通信教育課程）、 外国語学部外国学科、 アニメーション文化学 部アニメーション文化 学科、心理学部子ども 発達教育学科、九州保 健福祉大学社会福祉学 部臨床福祉学科、保健 科学部言語聴覚療法学 科、視機能療法学科、 臨床工学科及び社会福 祉学部臨床福祉学科（ 通信教育課程）の定員 充足率の平均が0.7 倍未満となっているこ とから、学生確保に努 めるとともに、入学定 員の見直しについて 検討すること。</p>	<p>中心的な教育・研究分野に ついて、経験豊かな教授と 若手教員をあわせて採用し、 後継者の育成を図ることで 継続的な教育・研究の質の 保証に十分配慮した教員組 織編制としている。 加えて、31年度には助教を 1名採用予定である。 なお、本学園における定年 については、就業規則にお いて「新たに学校・学部又 は学科等を設置する場合は、 その完成年度終了まで、関 係職員の定年を延長するこ とができる。」と定めてお り、これに基づいて適切に 運用している。</p> <p>入学定員の充足に向けて、 従来から行っている進学 説明会、高校訪問、出張講 義、オープンキャンパスに 加えて、学部・学科ごとの リーフレット作成、分野別 ガイダンスへの積極的参加、 学科ブログを活用した情報 発信を行うことで、入学定 員確保を目指して取り組ん できた。このうち、吉備国 際大学社会科学部経営社会 学科では、科目等履修生と して学んでいた留学生在が進 学したことで、30年度入学 生は、前年の28名から12名 増の44名となった。今後も 秋学期入学者を積極的に受 け入れるなどして定員充足 に繋げたい。保健医療福祉 学部社会福祉学科は、平成 28年度より入学定員を10名 減の40名とし、入学定員の 見直しを図ってきたところ</p>	

であるが、入学者については直近の3年間で15名であった。このため、次年度の募集停止を予定している。心理学部心理学科は、平成29年度の入学者こそ40名であったが、それ以外は30名を切る状態が続いている。このため、次年度は入学定員を50名から40名に減員し、新たな心理職である公認心理師に対応する教育課程の充実を図りPRしていく。子ども発達教育学科（通信教育課程）については、入学者の大半が社会人であるため、休日を利用した進学説明会などを開催しているところであるが、ここ数年の入学定員充足率は、0.3倍程度と低い状態が続いている。今後は、福祉施設や保育園等の訪問を行い、PRするとともに、入学定員についての見直しも検討する。外国語学部外国学科は、平成26年の開設以来、入学定員充足率が常に0.3倍台であったため、平成30年度より入学定員を80名から50名に減員した。学科で取り組んでいる内容そのものが周知できていないこともあるので、今後フェイスブックや学科ブログを活用し紹介するとともに、高校教員を対象とした模擬講義や意見交換会などを実施していく。

アニメーション文化学部
アニメーション文化学科は、平成26年の開設以降、入学者数が少なく、そのほとんどが留学生であった。しかし、近年徐々にではあるが、日本人学生の受験・入学が増えてきている。

加えて、先般高梁市内にアニメ制作、映像配信などを行えるアニメスタジオが

開設された。ここでは、本学の教員や学生も携わる機会が多くなることから、様々な内容を情報発信し、広報活動に繋げていく。また、依然海外でのアニメ人気が高いことから、本学が提携している大学を中心に積極的な留学生確保にも努める。心理学子ども発達教育学科の入学数は、27年度17名、28年度23名、29年度15名、30年度は16名で、定員充足率はそれぞれ、0.43倍、0.58倍、0.38倍、0.4倍と厳しい状態が続いている。次年度に向けて入学定員の見直しを含めた検討を行う。九州保健福祉大学社会福祉学部臨床福祉学科は、平成27年度に入学定員を前年度までの145名から65名に減員し、現在に至っている。その間の入学者数及び入学定員充足率は、平成27年度57名（0.49倍）、平成28年度31名（0.47倍）、平成29年度34名（0.52倍）平成30年度30名（0.46倍）と厳しい状態が続いている。高校での出前講義や、大学での模擬講義などを実施したが、入学まで結びつかなかった。これを踏まえ、次年度入学定員を40名に変更する予定である。

保健科学部言語聴覚療法学科、視機能療法学科については、高校生、高校教員の認知度が低いことから、本学教員が高校訪問を行ったり、進学説明会に参加するなどしてPRしてきたが、結果として、入学者の確保には至らなかった。入学定員40名に対し、ここ2年間の入学者数及び入学定員充足率は、言語聴覚療法学科が29年度12名（0.3倍）、平成30年度22名（0.55倍）、視機

留意事項

未履行

能療法学科が平成29年度6名（0.15倍）、平成30年度11名（0.27倍）であった。これを踏まえ、言語聴覚療法学科については、高校生、保護者に職種を理解してもらえるようなリーフレットの作成やブログ等での情報発信を行い、入学者確保に努めるとともに、適正な入学定員の見直しについて検討していく。視機能療法学科については、募集停止の手続きを進めていく。

臨床工学科は、平成26年度の入学者が38名で入学定員40名に対して充足率は、0.95倍であった。これにより、平成27年度から、入学定員を10名増の50名として、現在に至っている。しかし、直近3年の入学者数及び、入学定員充足率はそれぞれ、平成28年度18名（0.36倍）、平成29年度17名（0.34倍）、平成30年度21名（0.42倍）と厳しい状態が続いている。次年度に向けては、臨床工学技士という職種の重要性をしっかりと説明し、充実した学内の実習機器、高い国家試験の合格率を売りに広報活動する。また、入学定員を40名に減員し、定員確保に向けて取り組む。

社会福祉学部臨床福祉学科（通信教育課程）は、1年次入学定員が500名と多く、社会人も多く在籍している。従って、休日を利用した進学相談会の実施、ダイレクトメール、新聞広告などで告知しているが、入学定員充足率は、平成27年度0.18倍、平成28年度0.2倍、平成29年度0.22倍と低い状態が続いている。これを踏まえ、次年度は入学定員の見直しを検討し、入学者の確保に努める。

	<p>・吉備国際大学保健医療福祉学部理学療法学科の入学定員超過の是正に努めること。</p>	<p>吉備国際大学保健医療福祉学部理学療法学科の入学定員超過率は、平成26年度から平成29年度までの4年間で平均1.36倍であった。これは、平成26年度と平成28年度において、合格者に対する入学者の歩留率の見込みを誤ったためであるが、いずれも翌年で調整している。平成30年度の入学者は37名であったため、平成27年度から平成30年度までの入学定員超過率の平均は、1.17倍となり是正された。今後も入学定員超過率の適正な状況を維持するよう、努めていく。</p> <p>(30)</p>	
--	---	---	--

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<農学部 醸造学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
・特に変更なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉備国際大学教育開発・研究推進中核センター *吉備国際大学教育開発・研究推進中核センター規程を別添添付。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育開発・研究推進中核センターは、定例会を毎月1回実施しており、平成29年度については、14回の開催であった。 <table border="0"> <tr> <td>第1回 平成29年 4月 5日（構成員 9名中 9名出席）</td> <td>第8回 平成29年10月 4日（構成員 9名中 9名出席）</td> </tr> <tr> <td>第2回 平成29年 4月17日（構成員 9名中 8名出席）</td> <td>第9回 平成29年11月 1日（構成員 9名中 9名出席）</td> </tr> <tr> <td>第3回 平成29年 5月10日（構成員 9名中 9名出席）</td> <td>第10回 平成29年12月 6日（構成員 9名中 7名出席）</td> </tr> <tr> <td>第4回 平成29年 6月 7日（構成員 9名中 9名出席）</td> <td>第11回 平成30年 1月10日（構成員 9名中 8名出席）</td> </tr> <tr> <td>第5回 平成29年 7月 5日（構成員 9名中 9名出席）</td> <td>第12回 平成30年 2月 7日（構成員 9名中 8名出席）</td> </tr> <tr> <td>第6回 平成29年 8月 2日（構成員 9名中 9名出席）</td> <td>第13回 平成30年 3月 8日（構成員 9名中 9名出席）</td> </tr> <tr> <td>第7回 平成29年 9月 6日（構成員 9名中 8名出席）</td> <td>第14回 平成30年 3月14日（構成員 9名中 9名出席）</td> </tr> </table> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD研修会の開催について <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD研修会（大学院を含む） <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による研修 <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度第1回FD・SD研修会（平成29年4月30日（日）開催 121名参加） 「発達障害のある学生の支援 ～教職員による具体的な支援方法～」 佐藤暁（岡山大学大学院教育学研究科 教授） ・平成29年度第2回FD・SD研修会（平成29年8月2日（水）開催 146名参加） 「すぐに始める中退予防ー中退予防は大学の質向上の基点ー」 徳永幸生（芝浦工業大学名誉教授） ・平成29年度第3回FD・SD研修会（平成30年3月12日（月）開催 84名参加） 「地域創成人材の養成における興動館教育プログラムの意義」 濱田敏彦（広島経済大学 教育・学習支援センター長） 	第1回 平成29年 4月 5日（構成員 9名中 9名出席）	第8回 平成29年10月 4日（構成員 9名中 9名出席）	第2回 平成29年 4月17日（構成員 9名中 8名出席）	第9回 平成29年11月 1日（構成員 9名中 9名出席）	第3回 平成29年 5月10日（構成員 9名中 9名出席）	第10回 平成29年12月 6日（構成員 9名中 7名出席）	第4回 平成29年 6月 7日（構成員 9名中 9名出席）	第11回 平成30年 1月10日（構成員 9名中 8名出席）	第5回 平成29年 7月 5日（構成員 9名中 9名出席）	第12回 平成30年 2月 7日（構成員 9名中 8名出席）	第6回 平成29年 8月 2日（構成員 9名中 9名出席）	第13回 平成30年 3月 8日（構成員 9名中 9名出席）	第7回 平成29年 9月 6日（構成員 9名中 8名出席）	第14回 平成30年 3月14日（構成員 9名中 9名出席）
第1回 平成29年 4月 5日（構成員 9名中 9名出席）	第8回 平成29年10月 4日（構成員 9名中 9名出席）													
第2回 平成29年 4月17日（構成員 9名中 8名出席）	第9回 平成29年11月 1日（構成員 9名中 9名出席）													
第3回 平成29年 5月10日（構成員 9名中 9名出席）	第10回 平成29年12月 6日（構成員 9名中 7名出席）													
第4回 平成29年 6月 7日（構成員 9名中 9名出席）	第11回 平成30年 1月10日（構成員 9名中 8名出席）													
第5回 平成29年 7月 5日（構成員 9名中 9名出席）	第12回 平成30年 2月 7日（構成員 9名中 8名出席）													
第6回 平成29年 8月 2日（構成員 9名中 9名出席）	第13回 平成30年 3月 8日（構成員 9名中 9名出席）													
第7回 平成29年 9月 6日（構成員 9名中 8名出席）	第14回 平成30年 3月14日（構成員 9名中 9名出席）													

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

第1回FD研修会では、発達障害および人間関係構築能力が乏しい学生に対する支援技術を学ぶことにより、発達障害のある学生の教育支援に活かしている。第2回FD研修会では、中途退学の予防について学び、教職員が情報を共有しながら退学防止に努めている。

第3回研修会では、地域との連携について学んだ。本学では、既に市民向けの講座や学内施設を使用した研修会を開催しているが、今後もさらに地域との連携を深め、大学の質的向上も図っていく。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

全教員対象に春・秋学期に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

HPに掲載

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本年度入学者の醸造・発酵学に関する学修意欲は高く、順調なスタートを切っている。本学部は、平成25年4月のキャンパス開設以来、立地する兵庫県南あわじ市並びに地元地域の各団体・企業等との各種研究開発を順次進めてきた経緯があり、この成果を踏まえ平成29年度私立大学等研究ブランディング事業に選定された。現在、本学科においても、事業の課題研究に関して学生と共に取り組んでおり、灘を始めとする醸造メーカーとの学生のインターンシップに関する協定を締結している。さらに徳島県の酒造会社から入学した希望する数人の学生に、1年次の基礎演習で醸造の実際を講義している。本学科の目指す「日本食を支えてきた醸造に関する確かな知識と技術を身につけ、醸造関連分野で活躍できる人材の育成」について着実に進展している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・ 1回目 平成 9年 3月 公表
- ・ 2回目 平成 16年 3月 公表
- ・ 3回目 平成 23年 9月 公表
- ・ 4回目 平成 28年 3月 公表

b 公表方法

- ・ 自己点検・評価報告書をHPに掲載

③ 認証評価を受ける計画

- ・ 平成28年3月8日に公益財団法人日本高等教育評価機構の平成27年度大学機関別認証評価の結果、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定された。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表（予定）の有無 (有 無)

b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期 (平成 30 年 6 月 末日)

(注) ・ 「a ホームページに公表（予定）有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「b 公表（予定）有の場合の公表（予定）時期」には、「a ホームページに公表（予定）有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。